

グジャラート州高裁が新幹線プロジェクトを軌道に乗せる

The times of India

2019年9月20日

アーメダバード:ナレンドラ・モディ政権の野心的なムンバイ-アーメダバード新幹線プロジェクトは木曜日、グジャラート州高等裁判所で重大な成果を得た。

高裁は、土地所有プロセスへの抗議とより高い補償を求める農民と土地所有者により提訴された59の請願を拒絶した。

裁判官アナント・デイブと裁判官ビレン・ヴァイシュナブの判事は、原告の「利益の欠如」を指摘した。

判事は、2013年の土地取得、リハビリ及び再定住における公正な補償と透明性への中央権においてなされたグジャラート州政府の修正への疑義を却下した。

土地所有者にとって有益な条項の州の希釈の有効性を指示することによって、高裁は新幹線プロジェクトのための土地取得のために合法的にとられた全ての政府の行動を有効とすることを維持した。

高裁は、グジャラート州政府により発行された土地取得通知への農民の異議を却下した。農民は、それは複数州にまたがるプロジェクトであり、中央が土地取得の唯一の権限者であると争ってきた。

遅ればせながら、中央は、グジャラート州に対してプロジェクトのための土地取得の権限を委任し、大統領の同意を手に入れた。

高裁は、それは遡及的效果が有効であると述べた。それはまた、通知の発行日は合法であると述べた。

高裁はさらに、土地取得以前の社会影響評価(SIA)及びリハビリと再定住パッケージの義務に決別を与える州は合法であると識別した。

したがって、SIAのないグジャラート州の通知は、不適切ではなかった。それ(高裁)はまた、日本国際協力機構(JICA)ガイドラインに基づいて実施されるSIAプロセスも適切で満足できるものであったと言った。

補償の側面において、高裁は農民のために開かれたオプションを維持し、彼らは、より高い補償のために他のプロジェクトに提供された補償パッケージを示すことができると語った。

農民の弁護士であるアナンド・ヤグニクは、影響を受ける6,900人近い農民の60%近くが土地取得プロセスに反対していると語った。彼らは、現在最高裁へ向けて進んでいる。

昨年、農民は、土地取得のための通知を発行するグジャラート州の権限に反対して高裁に提訴した。彼らは、中央土地取得法の州の希釈の憲法上有効性に異議を唱えた。土地取得プロセスの合法性に異議を唱えることによって、彼らは、影響を受ける人々がより高額な補償を得るように、このプロセスにおいて中央法が適用されるべきことを主張した。

しかしながら、審理の期間中、州政府は、高裁に対して、彼らが影響を受ける人々のために適切なR&R(リハビリと再定住)パッケージを検討することを保証した。